

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市環境審議会				
事務局 (担当課)		環境政策課 電話042-769-8240(直通)				
開催日時		平成31年3月27日(水) 14時00分～16時00分				
開催場所		相模原市立環境情報センター 2階 学習室				
出席者	委員	15人(別紙のとおり)				
	その他	2人				
	事務局	7人(環境共生部長、環境政策課長他5人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1. 開会 2. 議題 「第三次環境基本計画」の策定について (1) 第2回環境審議会の審議結果と対応(案) (2) 第三次環境基本計画 素案の内容 (3) 事業者ヒアリング結果 (4) 計画策定に向けたスケジュール 3. その他 4. 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員、 は事務局の発言)

1 . 開会

2 . 議題

「第三次環境基本計画」の策定について

資料1の「第三次環境基本計画」の策定について、事務局から説明を行った。

「望ましい環境像」について、もう少し市民にとって理解しやすい言葉がよいのではないか。現在、案として挙げられている「地域循環共生都市」は市民にとって理解が難しいのではないか。

【参考資料】「第3次環境基本計画(素案)」のp.5にイメージ図がある。環境省の第五次環境基本計画では「地域循環共生圏」が挙げられており、本市が持つ山間部から都市部までの土地利用とそれらが繋がっていくといったことと関連が深いと考え、類似の内容を反映した。市民に意味が伝わるよう周知方法等の検討を行っていく。

p.14の「05環境ライフスタイル」の「環境影響評価の普及」という表現について、施策内容としては積極的な取り入れ等となっていることから「普及」という文言ではなく「促進」等の表現の方がふさわしいのではないか。

表現については、「促進」を使う等、再度検討をしていく。

自主アセスは事業者独自の取組であるため、市の管轄とする条例のアセスとは切り分けて整理することが必要である。

「望ましい環境像」は、現計画のものが市民にとってもわかりやすく本市の特徴を表現しているのでこのまま継続しても良いと思うが、「望ましい環境像」を変える場合には、現計画のものと比較してどの部分が変わったのか等その理由を整理することが必要である。また、5つの「環境目標」の名称は「対策」がついているものといないものがある。つけないという選択肢もあるため、施策内容を踏まえて名称は再度検討いただきたい。

「望ましい環境像」については、何が理由で変えたのかを整理する。また、「望ましい環境像」と「環境目標」の名称は、総合計画や各分野の個別計画と整合を取りつつ、バランスを考えて調整することとする。

「望ましい環境像」の主題部分は、総合計画に沿っているのであれば、それを理由として示すとよい。

「望ましい環境像」については、「地域循環」という考え方も大事だが、「持続可能」ということをもっと強調していただきたい。

「望ましい環境像」については、ご意見を踏まえて整理する。

p.14 の 2 の『「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」に基づく「環境教育等行動計画」として位置付け』の意味について、説明してほしい。

第3次環境基本計画の施策「環境教育・学習」が法令に基づいた「環境教育等行動計画」を兼ねるということをお示ししている。「環境教育等行動計画」は、環境基本計画の中に作る自治体と、別計画として作る自治体があり、本市は前者に該当するものである。

p.14 の「03 水とみどり・生物多様性」の施策「水」のところでは、SDGs のゴール 14 (海の豊かさを守ろう) が挙げられているが、【参考資料】「第3次環境基本計画(素案)」を見ると海洋資源についての施策が見受けられないが、施策内容と SDGs のゴールとの関連性について整合がとれていないと感じる。

ご指摘の内容について、照合を行い、修正する。

p.14 の「05 環境ライフスタイル」では「環境施策の総合的推進」とあるが、もう少し柔らかい表現の方が市民にとってわかりやすいのではないか。

また、施策の「環境配慮の促進」について、環境まつり等のソフトな取組が施策内容に含まれているのであれば、「環境配慮行動の促進」や「環境意識の啓発」とするなど、名称について検討いただきたい。

ご指摘を踏まえ、市民にとって分かりやすく、伝わりやすい表記となるよう整理する。

p.17 の「02 資源循環」の取組方針「家庭系ごみの減量化・資源化」で示されている取組について、過剰包装やレジ袋等の削減は、事業者が行うものではないか。

家庭系ごみの中には、商品を包む包装紙やスーパーのレジ袋などが含まれており、「簡易包装、詰め替え商品等の選択」や「マイバックの利用によるレジ袋の利用削減」など消費者を対象とした取組をお示している。

p.17 の「02 資源循環」の目標である「ごみの総排出量」について、本市では、2019 年をピークとして人口が減ることが予測されており、ごみは人口減少に伴って減少していくと思う。その現状を踏まえると目標としてどうなるのか。

相模原市廃棄物減量等推進審議会委員として回答する。現状で一日一人当たり490gであるが、将来的に465gに減らす目標となっている。

目標については、市民に伝わりやすい表記となるよう整理する。

SDGsについては、環境目標、施策に対してなるべく多くのゴールを当てはめて欲しい。施策と整合がとりづらいゴールもあると思うが、市の姿勢として、網羅的にSDGsに取り組んでいるということがわかると、本市の施策として価値が出てくると思われる。たとえば、SDGsのゴール14（海の豊かさを守ろう）について、本市は海が無いので考えにくいと思うが、河川や水源林の整備で海にも繋がるなど、考え次第では該当するゴールとして挙げて良いと思われる。

SDGsと目標がどうつながっていくのかを計画本文にはしっかりと記載したほうが良い。また、SDGsは、フォローアップが大事になるため、SDGsの指標に対して本計画がどのように貢献していくのかを示すと良いと思われる。

環境目標や各環境施策とSDGsのターゲットの関連付けについては、委員のご指摘や「SDGsの取組」に対する本市の方針、他都市の状況を踏まえながら、整理を行っていく。

山間部の課題であるメガソーラーの開発について、自主アセスのみの対応で足りるのか。

大規模な太陽光発電施設の開発対応については、アセス条例で対応を検討予定であり、本計画への記載も検討していく。

海洋プラスチック汚染の問題への対策についてどこかに示す予定はあるのか。

海洋プラスチック汚染の問題については、施策としての記載はないが「02 資源循環」において、レジ袋等のプラスチックごみの削減を示しており、そのような取組は海洋プラスチック汚染対策に繋がると思われる。また、そのことは、計画本文中で記載を行う。

p.20の「05 環境ライフスタイル」について、平成28年に閣議決定された地球温暖化対策計画でも示されているとおり、事業者に対してISO14001などの環境マネジメントシステムの普及促進が有効であるため、追加していただきたい。

事業者に対する環境配慮の促進やエコアクション21、ISO14001等は重要であり、取組への追加を検討していく。

近年、社会で話題性があるテーマを入れることについては、市民にインパクトを与えるので良いのではないかと。

最新の社会動向等を踏まえながら、施策等の検討を行う。

p.18の「03水とみどり・生物多様性」では、これまで生物多様性の認知度の向上に向けた取組を行っており、啓蒙活動を入れるのが良いと思うが、環境目標「03水とみどり・生物多様性」か、「05環境ライフスタイル」の施策「環境教育・学習」か、どちらかが良いと思われる。

次期「水とみどりの基本計画・生物多様性さがみはら戦略」と整合を図りながら検討を行っていく。

p.17の「02資源循環」の目標とする指標の設定の仕方であるが、市民には、「1人1日あたりのごみ排出量」といった表現の方がわかりやすいのではないかと。排出量、最終処分量についても、リサイクル率というような別の指標があると良いのではないかと。

p.18の「03水とみどり・生物多様性」は、施策の数に比べ、指標が少ないと思われるため、施策をカバーできているかは再度検討してはどうか。

また、「水辺やみどりに親しめる場が十分あると感じる市民割合(%)」は、生物多様性の指標である、希少種の数、水質などの指標を持って来るなど、別の指標を再考してはどうか。

p.19の「04環境リスク対策」は、本計画は本市の環境を良くしようという趣旨なので、目標に規制基準までは入れなくても良いかもしれない。

p.20の「05環境ライフスタイル」は、施策を進行管理する指標について再考の余地があるのではないかと。

委員のご指摘を踏まえて、わかりやすい指標、見せ方について検討する。また、各分野の個別計画において、検討中のところもあるため、調整を行いつつ整理していく。全体的に表記方法についても一工夫し、市民にわかりやすいものとする。

p.10の山間部の課題として、合流式下水道の分流式への改善が挙げられているが、地域課題としてそぐわないの再確認いただきたい。

p.18の「03水とみどり・生物多様性」に関連して、市内の街路樹について、伐採されている印象が多いように感じる。伐採するだけでなく、自然景観にも配慮した維持管理を行うなど、柔軟な対応について検討いただきたい。

関係部署や次期「水とみどり基本計画・生物多様性さがみはら戦略」と調整を図りながら検討を行っていく。

メガソーラーの規制は確かに必要であるが、再生可能エネルギーの普及を打ち出すことも重要であるため、再エネと開発影響の調和をしていくことが重要である。

また、「05 環境ライフスタイル」について、本市はこれまで環境ビジネスを目指した取組を行ってきたこともあるので、環境ビジネスについての施策を追加しても良いのではないかと。

再生可能エネルギーの普及とそれに伴う環境保全の両立については、「05 環境ライフスタイル」の環境影響評価の普及に関連する施策として、計画に位置づけを行っていく。

また、環境ビジネスについての施策については、市内事業者アンケート・ヒアリングにおいて環境保全をビジネスとして取組むことの重要性などが挙げられており、多主体連携による環境ビジネスの構築に向けた仕組みづくりについて、検討を行っていく。

p.16の「01 地球温暖化対策」の施策「再エネコーディネート」とは、どのような取組か。

事業者や行政が連携して取組を推進するため、再エネ利活用に向けた勉強会の場などを提供するものである。市民にわかりやすい表記について、検討する。

水循環の視点は重要であるためどこかに施策として入れたらどうか。

ご指摘を踏まえて、次期「水とみどりの基本計画・生物多様性さがみはら戦略」と整合を図りながら検討を行う。

p.19の「04 環境リスク対策」について、SDGsのゴール3（健康と福祉）が入っても良いのではないかと。

また、p.22の「計画の推進主体と役割」に教育機関も入るべきではないかと。

ご指摘を踏まえて、内容や表現方法を検討する。

以 上

相模原市環境審議会委員名簿（敬称略） 第3回(平成31年3月27日開催)

選出区分	委員名	所属・役職	備考	出欠席
学 識 経 験 者	一色 正男	神奈川工科大学 創造工学部 教授		出席
	遠藤 治	麻布大学 生命・環境科学部 教授		出席
	大河内 由美子	麻布大学 生命・環境科学部 准教授 (相模原市廃棄物減量等推進審議会委員)		出席
	岡部 とし子	相模女子大学 栄養科学部 教授		出席
	亀山 章	東京農工大学 名誉教授	会長	出席
	田中 充	法政大学 社会学部 教授 (相模原市地球温暖化対策推進会議会長)		出席
	南部 和香	青山学院大学 社会情報学部 准教授		欠席
	松本 安生	神奈川大学 人間科学部 教授	副会長	出席
	吉永 龍起	北里大学 海洋生命科学部 准教授 (相模原市水とみどりの審議会委員)		出席
市内の 公共的 団体等の 代表者	荒井 美由紀	相模原市立小中学校校長会 委員		欠席
	北村 陽子	(特非)さがみはら環境活動ネットワーク		出席
	佐藤 治男	津久井郡森林組合 代表理事組合長		欠席
	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会 副会長		出席
	根本 敏子	相模原商工会議所 常議員		出席
	古屋 伸夫	(特非)かながわ環境カウンセラー協議会 相模原支部長		出席
	本田 充樹	相模原の環境をよくする会 会長		出席
関係行政機関の 職員	佐々木 涉	環境省関東地方環境事務所 環境対策課長		欠席
公 募	大久保 和美	中央区在住		出席
	梶山 純	中央区在住		出席
	斎藤 奈美	中央区在住		欠席